

大辞林

四版

松村明

三才堂

1177



やりがな(四)「槍炮」 砲の一稱。槍の標先に似た刃に
い柄を打つけたもの。中世から台座銃
銃が出現するまでは、ほとんど全
呼ばれていた。一種屋の間にまぎえ
るなどして使った。
やりきす(四)「槍師・槍紙」 槍で
突かれた面を「槍師」、槍紙
やりける(四)「走り切る」(動ラ五
【四】) 物事を最後までする。やり
とげる「ノルマを全力で遂げてし
やる」(四)同。「走り切る」
やりきれない「走り切れない」(連
語) ①物事を最後まですることができない。今日自由
にはない。(二)たえきれない。かなわぬ。「ぐちを聞か
されるのがない」
やりて回「送り回」 連続・非響の時合で、あとへつけられ
捨てる句。前句が難しく付けられる時や、手の込んだ句が
続き、気分転換が必要がある時に行う逃げ句。
やりくち(四)「槍草」 スズメノカサヤフの別名。
やりくり(四)「やり方」 やりよう。「がき
たりい」
やりくり(四)「遣りゆり」(名) ①あれこれ工夫をしてや
都合をつけること。②妻妾の一人に遇われる。「しし船頭を
合わせる」③遊女が間客に密会すること。後者は「間客
員」とかめ「一代女」……さんだん(四)「遣り繰り」役段(三)
④(スル)工夫して費用をする。こと。特に金銭上の。よしよ
りくりの工夫。「しつて費用をはおり出す」(一)よしよ
り(四)「遣り繰り」上。やりくりをしてやつ「生活して
ゆるける数に似せず」
やりける(四)「通り繰る」(動ラ五、四) ①やりくりをする
十分のことあることをいう工夫して都合をつける。身上
マル「ハコヘン」風。②回りくねる。
やりこなす(四)「遣り率」(動サ五、四) うまく処理す
る。「経費をおこなう」(四)同。「やりこなせる」
やりこめる(四)「遣り込みあふ」(動ラ五、四) ①図々し
相手の顔についたら、言い負かしなりして相手に怒ら
せる。強引に「めくれる」
やりき(四)「槍先」 ①鎧の先端。槍の穂先。また「槍」に
かかる。②攻撃の方角。またその義は「先」を一回
ける。③戦いの始まり。(一日置)
槍先の功名「戦勝での手柄。武職、槍下の功名」
やりさび(四)「槍師」 ①宋祁の曲名。文版(三)の
の流行曲(注)の「調子」を宋末に歌謡化丸が歌謡
を改め、節付したとされる。浪人をうった「槍は錆びひ
て名は錦のめかしたる名」
やりし回「槍師」 ①槍を作る職人。②槍を巧みにあやつ
る人。
やりした「槍」 ①槍の下。「日置」②槍で突き伏せること
と「終」にて「死」(四)同。長公記「③戰場。せはしき場
の時に、槍の印付、
やれはる(四)「槍出」 行列または出陣の時、槍の印付、
の環に付けて、旗を明らかにした様式。
やりすき回「遣り過」 やりくち(三)よりこまでやる
のは。
やりすき回「遣り過さる」(動ラ五、二) 度を超えて物事
をしすぎる。しすぎる「仕事をしすぎで病める」
りすき回「遣り過」(動ラ五、四) ①あそこから来



॥ ॐ नमो भगवते वासुदेवाय ॥

[illegible]

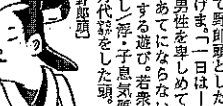
1000

一一一

[illegible]

に夜話

○「野郎頭」の略。○「野郎頭」の歌舞舞を割つて「野郎頭」としたところから呼ぶ名。○男色を売る者、かけま、一日はもよしや浮一代男三〇代三九人稱男色に事しめて呼ぶ語や、又「一」の言ひこゝとはあてにならぬ。「あそび」「野郎遊」は、男色と相手をする遊。若衆く「い」「國遊」は、金銀を皆になし「厚子」氣風なり——あたまた「野郎頭」前髪を割り、月代髻をした朝。江戸時代の二部（朝の成年男子）の髪形。
「かい」「野郎遊」は「野郎遊」をするこゝにまつたその人の「野郎」を呼んでと見せ替へてもの色とれる御頭にたましまさず滑稽根拠意具依——かぶき歌舞歌舞舞初期歌舞舞の一若衆歌舞舞は、風俗を乱すとして禁止されたこと起こつた形勢、野郎頭の役台によって矯正されたことに起る。一ちや「野郎頭」
【野郎茶館】江戸時代、男湯を抱えた茶屋。野郎黒髪、陰間茶屋、男色、格子、供茶屋。一層し「野郎頭」野郎歌舞色の俳優月代髻を隠すために用いたかぶりもの、兼帽箱などで作った。――よはわり「監野郎呼ばわり」なるものして野郎と呼び捨てられたこと「されたる」う「野郎」(全形態)廻り洗練され卑しいこと
やう「女性の品性の下劣」なる人心の醜惡なる、常に年若者の建樹をなすを知る、歌かざるの記説
やう「回」歌舞曲「やくらく」歌舞曲と同じ。――ぶた「園」
【葉籠】葉籠の蓋のように作つた籠。かふせ蓋、やくらくやうぶた
やうぶた「愛都」中国漢代の西南夷の一、現在の貴州省方部に農耕畜産を営んだ非漢民族、前漢の武帝が平定して郡県を置き、夜郎王となし開拓した。――じだ「日夜郎目」(史記周勃公による、夜郎が漢の強大さを知らず、自分の勢力をたのみとして、たとへたらしく、自分の力量を知らずに仲間の間で威嚇してゐる者)
やう「Farmer」キク科の多年草。ヨーロッパ原産。六・八月花を咲かせる。昔から止血に用いられたが、強壯、健胃効果もある。セイヨウユウゼリソウ。
やう「連語」(「にややんやんの髪をあらうらんか。中世語、活用、活用型ある。一の副詞助動などに付く。)助動詞的に用いる。「……」の「だう」は「の」の「だう」の意を表す。「はい」「すくなく」をはかり候は「平家五ノ何」した事に、古本に「つづいた一」ヤ毛持抄。○「野郎頭」に力がつうれて不敵な顔をして突然と表す。後小松院は力がつうれて不敵な手で「時抄四」此等の人は、衝では何處の子しらねは毛時抄二「にややんやむからでさくらん」の變化したもので、副詞やらに至る過激的な形。中世語には「はやら」と並んで盛んに用いられた。→やらん(連語)やら(副動)並立助動
やロザチヤロバ(Rozavitsky)は春化処理に就くヤロザチヤロバ(澤田)「ヤロビ」ヤロビにロザチヤの恥、春化处理を用いた農法。一九五五年昭和三十〇(昭和三十一年)に刊行したミュージーラン農法。
や「囃」(囃)一夜する時よりなし。○氣樂に話さうやな語や書かれた建物。音楽。③操業で、修行のために夜話。訓詁。



リニウス(*Linnæus*)　華英、蘇精、鄭元沢訳。
リクス・コス(*Rex Cos*)　伝統的にスバルタの立法官。
実在説では紀元前九～八世紀の酋長とする。国家の基本体制から生活様式にわたる規定を作り、秩序を回復したという。
リュシッポス(*Lycippos*)　紀元前三四〇年のギリシャの影響を受けたアレクサンドロス大王の乗鞍にはえ、大工の肖像をも多数製作した。

リュニックサック(*Nyctiphaga*)　登山などに行くとき荷物を入れて背負う袋。総称ルザツキ。リュエ、ザツキ。リュトプ(*Nyctophila*)　フランスの詩人、三世紀前半に活躍。作品は風刺時評滑稽小説詩フアブリオ(韻文)『笑ひ勝たぬ多勢なギンヤル』にある。
リュートン(*Eutryon*)　動物の角のあるいは頭部をかたとった杯人間の頭部をかたとった「リュエン」ものもある。

[illegible]

二八八五

[illegible]

A black and white line drawing of a person, likely a porter or laborer, carrying a large, rectangular bundle on their back. The bundle is secured with straps and appears to be made of stacked boxes or crates. The person is wearing a traditional cap, a long-sleeved shirt, and shorts. They are holding a sign or a small board in their right hand, which has some text on it, though it is not clearly legible. The person is walking towards the right.

ようきり山(陽起) ①花被花 碧と花冠とを備えた花
ようきり山(陽起) ②両方の脚、片側「道」のう
ようかん燐回(燐回) ③涼しさを感ぜし「道」さう
ようかん燐回(燐回) ④色スル 官職をあかせる。官職
ようかん燐回(燐回) ⑤軍艦をあらわす。官職に
ようかん燐回(燐回) ⑥紅、江戸後期の歌人準信・備前周
宗、越後出雲師の人々、は曲号は大島俗名山本栄
國薩國を行動せし一七九六年より帰郷、国上山、
の五合庵に住み、農民や子供と交わり超世俗的な生
を送った詩客といふ。大歌集に筆の貞仁尼蓮、琳
の需があり二人の愛の微かなる取め。
ようかん燐回(燐回) ⑦女性性。
川などの両方の岸、りょうぎ。
ようがん背回(背回) ⑧両方の目、双眼。い髪隠耀。――
きょうろ回(回眼鏡) ⑨耳あざ鏡。
きょうらん回(回眼鏡) ⑩耳あざ鏡。
ようきり山(陽起) ⑪よい器物。⑫よい器置。すぐれた
才能など其の特長。
ようきり山(陽起) ⑬非常に鋭秀な馬、駿馬。
ようきり山(陽起) ⑭涼しい空気を、涼しい朝の「う
ようきり山(陽起) ⑮怪奇、異常なものに執着してそれ
をあり求めること。⑯愚昧。⑰てき面(頭角の)形
動(驚き)異常なものをおそひ求めるさま、「な事件」
期に同じ。⑱狩猟に遇している時期。⑳狩猟
した教訓。
ようきり山(陽起) ⑲二つの意味、意蘊 ―せい回(兩義)
性)ある觀念や言葉に相反する二つの意味や解釈が含
まれていること。アンビグイティ。
ようきり山(陽起) ⑳太極から生じた二つの
対立物、陰陽、また天と地。
ようきり山(陽起) ㉑容姿をはかる器量。
ようきり山(陽起) ㉒中間の飛躍、同じ編織の飛び跳
ようきり山(陽起) ㉓容姿をはかる器量。
ようきり山(陽起) ㉔いよきも趣想。
ようきり山(陽起) ㉕「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉖「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉗「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉘「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉙「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉚「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉛「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉜「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉝「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉞「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㉟「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊱「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊲「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊳「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊴「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊵「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊶「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊷「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊸「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊹「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊺「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊻「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊼「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊽「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊾「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。
ようきり山(陽起) ㊿「公」貴理をすべて明らかに説き示
した教え。

[illegible][illegible][illegible]



大辞林 第四版

二〇一九年（令和一）九月二〇日 第一刷発行

一九八八年（昭和六三）一月三日 初版発行
一九九五年（平成七）二月三日 第二版発行
二〇〇六年（平成一八）一月七日 第三版発行
二〇一九年（令和一）九月二〇日 第四版発行

● 編者——松村 明（まつむら・あきら）
三省堂編修所

発行者——株式会社三省堂 代表者——北口克彦

印刷者——三省堂印刷株式会社

発行所——株式会社三省堂

〒107-8511 東京都千代田区神田三崎町二丁目十二番十四号
電話——編集（〇三）三三三〇—九四二一
営業（〇三）三三三〇—九四二二
商標登録番号——二八七七二六

△四版大辞林・3,200pp・ISBN 978-4-385-13906-7
落し本・乱し本はお取り替えいたします。
<https://www.sanseido.co.jp/>

本書を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。
また、本書を請負業務等の第三者に依頼してスキャン等によってデジタル化すること、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。